

みんなのおた場

届いたお手紙から みんなのおたより紹介



ありがとう

ある朝、突然左手の人差し指の関節に激痛が走った。診断は仕事による腱鞘炎。
仕事は休むこともできず、5歳の娘と2歳の息子の3人暮らしで頼れる人

もない。仕事を終え帰宅した夕方、さてどうしたものかと考えていると、娘が「自分がやるから」と食器洗いと米とぎを進んでやってくれた。初めての事だし、左利きでもともぎこちないが、その一生懸命さに胸打たれ、娘の隣で食器を拭きながら思わず涙がこぼれそ

うになった。
全て自分ひとりで抱え込んでいる状況の中、こんなにも近くに大きな味方がいたなんて。その後も「ママ、何か手伝う事ある？」と自分のエプロンをして私の周りから離れないでいる。
つい娘に甘え、それが当たり前前になってしまいう日もあるが、感謝を忘れずに「ありがとう」を伝え続けた。
また、震災時見知らぬ私たちのために服や食べ物物の心配をしてくださった皆さんへ、おかげさまで子どもともども元気ですと伝えたい。本当にありがとうございます。ありがとうございます。
(高橋 諭美)

◇投稿募集
皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのお話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までにお送りください。掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたものを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。
☒ 秘書広報課(内線4025) 〒986-8501(住所不要)
Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

「河南鹿嶋ばやし」と伝承式

石巻市文化財保護委員 門間康明

河南広瀨の「鹿嶋神社」の春祭りに宝暦のころより担ぎ山車が繰り出され、明治三十一年から曳山の運行

が開始されました。その山車の中にぎやかに囃されたのが「鹿嶋ばやし」です。交通事情で昭和四十五年

広瀨小学校では、六年生から五年生にお囃子と道具類、あわせてその精神を引き継ぐ「伝承式」が二月に行われ、保護者をはじめ保存会や地域の方々大勢が激励に訪れ、六年生の演奏のあと、五年生に道具類の引き継ぎが行われ、後を受けた五年生の堂々の演奏に大きな拍手が送られ、伝統の技の後継が証明されます。

その年の大河ドラマにちな因む題材をテーマにした華麗な山車は時代絵巻を見られるように保存会の方々に、よる飾り付けが行われますが、その準備は地区ごとに手分けして進められ、その集大成として山車は完成し、「鹿嶋ばやし」の山車まつりは地域総ぐるみで築き上げる一大イベントとして深谷の春を彩っています。



▶河南鹿嶋ばやしの「山車」

▶広瀨小学校鹿嶋ばやし伝承式

実施され、山車祭りが毎年四月第三日曜日に

サークル仲間 66

宮城岳風会河南前山教場の皆さん

一人ひとりが主役、個性生かして趣味深める

詩吟サークル「宮城岳風会河南前山教場」(佐々木重子教場長)は平成13年4月、宮城いきいき学園のクラブ活動で詩吟を学んだ卒業生が立ち上げたサークルです。50代から80代まで会員11人が在籍し、西牧寒岳師範の指導の下、詩情豊かに漢詩や和歌、俳句を吟じています。地域の文化祭等各種行事にも積極的に参加し、住民との交流を図りながら詩吟の魅力を広げ発信しています。
設立当初から活動を続ける会員も多く、腕前はかなりのもの。毎週水曜日に遊楽館で活動しています。

一人ひとりが主役の団体であり、それぞれの個性を生かしながら趣味の世界を深めています。詩歌の心につれ、知識や教養を身に付け、豊かな情操も養われます。また、発声で鍛えられる複式呼吸には免疫力を高め健康を維持する効果があるとされます。前教場長の砂金(84)は「声高らかに吟ずることで、この通り元気でいられます」と、健在ぶりをアピール。最高齢者の川田豊治さん(86)も、詩吟を始めてから喘息の発作が起きなくなったそう。これからは体力の続く限り通い続けたいです」と抱負を語っていました。

3代目の代表者である佐々木教場長は、「こうして、よもやま話に花を咲かせる場が支えられています。これからは和を重んじ、一人ひとりが笑顔でいられるように活動を続けていきたくて話しています」。



▶宮城岳風会河南前山教場の皆さん

まちの話題

石巻地区

高橋尚子さんが走るコツ伝授



10月13日(土) 石巻専修大学グラウンド

シドニー五輪女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんによるランニング教室が行われました。集まった小中学生約100人に速く走るコツや正しいフォーム等を教え、一緒に汗を流しました。

高橋さんが石巻市に来たのは東日本大震災以後2回目。前日には開北小学校で、同校と湊第二小学校の児童に指導しました。

石巻地区

復興市で地域の魅力発信



11月11日(日) サン・ファンパーク

地域の魅力を発信する「おらほの復興市～伝えたい。今を、感謝を。」が、震災発生から1年8カ月後の月命日に開催されました。石巻弁の掛け声による「おらほのラジオ体操」で体をほぐし、一体感に包まれてイベントがスタート。会場には新鮮な魚介類や農産品、手作りの復興グッズが並んだほか、獅子舞や神楽等地域の伝統芸能も披露され、大勢の来場者を楽しませました。午後2時46分には黙とうを捧げ、風船を飛ばして犠牲者の冥福を祈りました。